

年末は早めに大掃除を!

粗大ゴミは「連絡票」を貼って
連絡は (5296) 7000
粗大ゴミ連絡センターに

ゆり北

第161号 (15期第7号)

発行・光が丘パークタウン

ゆりの木北自治会

東京都板橋区赤塚新町

3-32-4-403

電話03(3938)9181番

発行責任者 吉 柳 俊 孝

年末大掃除は十二月十四日(日)

自転車には「シール」を貼って下さい

けやきの落葉が舞い散る風景は詩的な雰囲気ですが、跡始末が大変です。分譲・賃貸とも清掃員の方々にとっては秋の大仕事です。また「ゆりの木会」では毎日曜の早朝清掃がいちばん苦勞する日々でもあります。自治会、管理組合では共同して、年末の大掃除の日を設けて、自分たちのまちを自分たちの手できれいに保とうと取り組んできました。

今年は、十二月十四日(日)におこないます。時間は午前一〇時から正午までです。各自のお住まいの棟の周囲、自転車置き場などをおこないます。また、団地や外周道路についても植えこみの中のビン、カンを中心に収集を行なって下さい。終了後はあたたかいお汁粉や甘酒を用意いたします。ご家族でご参加下さい。

◆ ◆

自転車は毎年二百台程度を処分してきました。今年も持ち主不明の自

板橋区は、都市計画決定されていた中学校建設を断念したことを住宅・都市整備公団に回答しまし

た。現在は、東京都都市計画審議会でも計画変更はされていないものの、今後、変更手続がなされるものと考えられます。

自治会としては、今年初め赤塚第三中学校の体育館が、学校隣接地に完成し、グラウンドの狭さが解消されたこと、この地域においても少子化が進み、児童数が減りつつある状況で、中学校建設見直しも止むを得ないと考えます。

こんな施設がほしい
=アンケートのお願い=

中学校予定地対策委員会

転車、団地外の記名のある自転車について撤去を行ないます。その識別は「ゆり北シール」の有・無で判断します。お持ちの自転車で「シール」が貼っていない場合は十二月十三日(土)までに貼って下さい。「シール」は、管理組合事務所、自治会役員のところにあります。

防災マニュアルの実践など 訓練に七〇余名参加

去る十月二十六日(日)九時からの新町小に於ける防災訓練は、多数のご参加を頂き、無事終えることができました。

当日は晴天に恵まれ、三月に配布しました「防災マニュアル」の第一次の対策本部運営訓練を五班に分け行ないました。班長の指揮で、各班迅速な行動で、各所に保管された資機材を調達し、校庭で消防署の方より、

ただ、この地域は練馬区と隣接して日常生活に不便を感じている住民も少なくはありません。そこで、数少ない土地の有効利用を考え、中学校建設用地に公共施設、公共用地としての確保を板橋区、住宅・都市整備公団へ申し入れたい考えです。

皆様の声を聞かせて頂きたいと思



また、お持ちの自転車でもう利用しないものは「粗大ゴミ」として、各自で処分の手続きをお願いします。粗大ゴミ取扱センターに申告して下さい。連絡は(五二九六)七〇〇〇です。十二月の下旬までに申し込んで下さい。処分は有料となります。

各資機材の名称や、使用説明を受けた。

その後、二班に分かれ、消防署の方の指導で、消火器による初期消火訓練と、三角布による応急救護手当の訓練を全員が受けました。小さな火災は、家庭内の消火器で充分消火可能なことの理解と、実際に消火器の操作を体験することで、「いざ」という時の冷静な消火活動を身につけて頂いたことでしょう。又、応急救護は、三角布が「あんなに沢山の応急手当で使えるのか」と関心させられる程、熱心なご指導を頂いた消防署の方に感謝致します。

当日の応急救護を、もっとレベルアップを考えた方は、志村消防署主催の普通救命講習が、本年度内に、未だ六回ありますので、会長又は防犯・防災担当者までご連絡下さい。

防災問題で23区自治協の交流会が開かれました。

今回は、「防災マニュアル」を作成した、むつみ台団地とゆり北団地の報告をもとに進められました。多くの区が、学区単位や出張所単位の防災計画や防災連絡会が設けられるなど行政側の動きが先行しているなかで、団地自治会単位の防災組織の編成やマニュアルづくりまでは進んでいませんでした。

災害は忘れず必ずやって来る

— 23区防災問題交流会 —

住宅・都市整備公団でも建物の耐震診断、補強工事を進めていますが、施設併設の住棟や建替え対象団地がはずれされており、対策の必要など後回しになっているのは問題だという指摘もありました。

王子五丁目では、防災訓練のときに、ブレーカーの見本を示して避難時のチェックの項目としています。これは神戸で電気の復旧にともない

団地管理は委託の方向

北営業所との懇談会

住宅・都市整備公団東京北営業所と23区公団住宅自治会協議会の北ブロック(板橋・練馬・豊島・北)にある団地自治会の懇談会が十月二十三日に行なわれました。

公団では「民営化」問題を控えて、今年の十二月から団地管理体制を更なる方針で、管理センター業務が全面的に委託される方向です。新たに居住者のなかから「緊急連絡員」を配置することも発表されていますが、公団として「団地」の把握方があいまいで近接する団地をひとまとめに

漏電火災とみられる火災が多数発生したことを教訓としたものです。

リバーサイドピア吾妻橋では、超高層団地ということから、家具の転倒防止に力をいれています。公団の調査研究によれば、神戸の高層住宅では地盤面に比べて31階では二・五

から、災害時の避難受け入れと、団地の防災組織の活動について具体的にしたいと考えており、行政との話し合いが待たれています。

して設置する考えです。(ゆり北の場合、ゆり東とともに「むつみ台団地」とまとめて考えている)そのため、居住者に不便さを強いるものとなりそうです。J・S(旧団地サービス)の夜間緊急センターの活用も口にしていますが、現状は水道などの緊急工事の窓口であり、団地で起きるさまざまな事件に対応することは難しいと思いました。

公団の体質改善の必要を感じた懇談会でした。

ぼうさいくんれん 防災訓練

ぼうさいくんれんに行きました。いろんなどうくを見せられました。まず、はじめにしょう火きのせつめいをしてくれました。そして、こんどはぼうさいくんれんがやるばんです。はじめは三角コーンを火だと思っ

へんだらうなと思いました。さいごに、けがややけどの手当てのやり方を教えてくれました。三角きんのつ



結び目はキズ口をはずしてね

かい方がいろいろあって、とてもおもしろかったです。
赤塚新町小二年 つくい 大

基本に帰る

訓練の始まる頃は雲が多く、肌寒い位でしたが、十時すぎには雲も移動し、心地よい訓練日和となりました。この日の訓練は、三月発行の「ゆり北防災活動マニュアル」にそって、対策本部組織編成、班別作業を行ったあと、初期消火と応急救護の訓練を行いました。

年一回の訓練は、過去に何度か参加していても、記憶をリフレッシュし

てくれます。私の場合、消火訓練では、消火液は十七秒分しかないので、火元にノズルを向けるまでは噴射しないとか、天ぷら火災のときは鍋の中に集中的に噴射して、まず鍋の火を消す(壁や天井は後に消火)とかを再確認しました。また応急救護訓練では、火傷は氷水に十五分間ひたし、その後、感染症を防ぐため、清潔な三角布でおおうこと、出血がひどいため血流を止める措置をとったときでも三十分一度は血流を再開することなど、記憶を新たにできました。

防災訓練の最大の利点は、近所の人々と顔見知りになることだと思います。それにより、日頃の災害防止や、いざというときの協力が円滑になるからです。防災は若い家庭にも重要です。来年は、より多くの若い人達の参加が望まれます。

二号棟 辛島 睦

消防車に

乗った かったな!

ボクは、十月二十六日に赤塚新町小学校の校庭で開かれた、ゆり北防災訓練に家族四人で参加しました。当日は、とても暖かな良い天気でした。赤い消防車が一台とカッコイイ制服を着た消防署のおじさん六人いました。ゆり北の人たちは、全部で七十人位と多くの人たちが集まっていた。保育園のお友達も何人かいました。

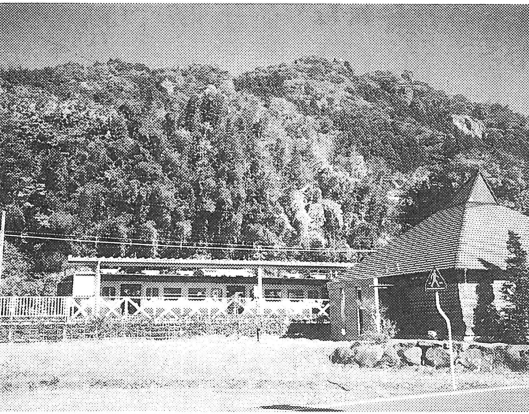
最初は、大地震が発生し、ゆり北に多くの人達が避難してくるので、その人達を受け入れるための、対策本部を設置する訓練が行われました。ボクたちは救護班でしたので、防災倉庫まで担架や、発電機、救急箱な

みんな真っ黒 おいもほり!

十月十八日に須田農園でおいもほりがありました。おいもほりには、わたしが行っている赤塚新町小学校の校長先生も来ていました。
いよいよおいもほりが始まります。最初はみんなえんりょしていたけどだんだん服もよごれてくると人の場所までほって最後には、もうほってしまったばかりの町会場所までほっていました。
最後には、顔も服も真っ黒でおかしかったけどまた来年もやりたいです。



まあ!! きれいにできたこと



カラーで見せたい美しさ!! 小野上村

どをリアカーで取りに行きました。倉庫は、僕が毎日通って遊んでいるゆり北の保育園の隣にありました。担架は一つだけだったので、大地震が起きて多くの人たちが怪我をしたら、とても足りないねとお父さんに言ったら、困ったねという顔をしました。

その後、発電機を動かすことになり、お父さんやおじさんたちが、何度か力一杯引きましたが、全然エンジンがかかりません。何人か目におじさんが軽く引いたら、エンジンが動き、灯がきました。ボクはとってもびっくりしました。お父さんは、エンジンが暖まっていないからだといい訳しました。ボクはうそをついていると思いましたが、消防署の人が、「普段使っていないと動きにくいんですよ」と言っていたので、本当なんだなと思いました。

訓練に飽きて、妹と走り回っているとき、妹が転んで膝を擦り剥いてしまいました。「あつ、こんな時こそ救急箱だ」と思い、妹の手を引き、救急箱を開けると、何やら埃が舞い上がりました。ボロボロと何やら古い古びているようでした。大人の人が、「使用期限昭和六十二年と書いてあるよ」と言いました。この薬を使おうかと悩んでいると、お父さんたちは、熱心に三角の布を使って、腕や足の手当てを練習をしたり、火を消火器で消す訓練をしていました。

最後に僕もお茶とお粥の缶詰を貰って家に帰りました。家に帰ってからは、消防車に乗せてもらっていいことに気がつき、損をしたような気がしましたが、いろんなことを見ながら、よかったねと思い遊びに行きました。

十号棟 滝沢 光太郎



西沢 由美子

十月の小野上村は、静かで長閑な風が流れていました。でも山を振り返るとびっくり。奇岩がニョッキリと飛び出していて、これは一目見て忘れられない光景です。水のきれいな川は、水遊びにちょうどよい浅瀬があって、子ども達を大勢連れて来て「ほら、遊んでおいで」と言ったらどんなに喜ぶことでしょう。土に親しんで作物の収穫祭もできるでしょう。村との交流を始めたきっかけが分かるような健全な環境です。

私なら、鳥の声と虫の音、川のせせらぎに耳を傾けて、時間が許せば一日ボンヤリとして、夕日が沈む山の端を眺めるのが最高かな。

また、俗化された観光地では見られない、素朴で温かい人情にもふれることができました。土産物店でクッキーを買った時の事です。

「少し焦げ目のついたのを」と言いながらあれこれ物色していると、売り子さんが「やっぱ「焦げている方がいいですか?」と聞くので、「焦げている方が美味そうでしょ」と答えると「やっぱりそうですか、焦げている方が美味しそうに見えるんだって」と周りの仲間に言いな